

2014 年度日本海洋学会春季評議員会 議事録

日時 2014 年 3 月 27 日 18 : 00 ~ 20 : 00

場所 東京海洋大学 品川キャンパス 生協食堂

出席者 秋友、安藤、池田、石坂、磯辺、市川（香）、市川（洋）、伊藤、今脇、岩坂、植原、植松、江淵、大島、岡、小川、蒲地、蒲生、川合（義）、河宮、神田、岸、轡田、久保田、倉賀野、小池、根田、須賀、千手、武岡、武田、津田、羽角、日比谷、深澤、古谷、升本、松野、道田、三寺、見延、安田、山形、山中、吉田各評議員、小畑、川合（美）、河野、杉崎、鈴木、原田、寄高各幹事、速水海洋環境問題研究会会長、中田次期大会長、中村西南支部長代理、渡邊ブレイクスルー研究会会長、毎日学術フォーラム（出戸，平坂）

委任状 上、謝、田上、花輪（4 名）

開会に先立ち、神田幹事から出席 45 名、委任状 4 名の計 49 名の有効出席員数があり、評議員会細則第 3 条の規定により、評議員会の成立要件を満たしている旨報告があった。

1. 会長挨拶（植松会長）

新幹事会体制で目標と定めた六本の矢に関して、1 年間の取り組みの成果が報告された。

- ・大型研究の推進：日本学術会議の 2014 年マスタープランに 2 件の研究計画を提案し、学術大型研究計画として「機動的多元的海洋観測体制の確立と運用」の 1 件が採択された。
- ・若手会員の育成：学会若手会員の ML を作成し、若手研究集会助成を行った。また、学会紹介パンフレットを作製した。
- ・他学会との交流：JpGU 委員の派遣やフェローの推薦を行った。
- ・国際化への推進：様々な国際学会や会合に多くの学会員が参加した。また、海洋放射能汚染に関するコロキウムを英語で開催し、大使館関係者や外国メディア関係者など 100 名を超える参加があった。
- ・会員の特典拡大：ニュースレターの発行、学会外の各賞への学会員の推薦を行っている。また、震災対応 WG の報告書をウェブサイトに掲載し、印刷も予定している。さらに、「大会運営検討 WG」と「新たな海洋観測ガイドラインの作成に関わる WG（仮称）」を設立した。
- ・財政の健全化：印刷業者の変更、編集経費の削減により支出を削減した。また、大会実行委員会からの戻り金があった。しかし、健全な財政のためには今後も更なる努力が必要である。

2. 大会委員長挨拶（深澤委員長）

本大会の大会参加者数について報告された。近年シンポジウムの数が多く、一般講演が

少ないことについて、今後の改善策の検討・議論が必要であることが述べられた。

3. 報告事項

1) 会務報告

a) 庶務（岡幹事）

2013年1月から2014年1月までの会員移動状況について報告があった。会員数が12名減少した。

b) 編集

・JO（日比谷編集委員長）

JO発行状況についての説明があった。特別セクション号2つを承認したことと、編集委員の交代が報告された。また、不正投稿論文があり対応したこと、近年却下・取り下げなる投稿論文が多いことが報告された。

・海の研究（久保田編集委員長）

順調に発刊していることが報告された。第22巻6号に将来構想委員会を取りまとめた「海洋学の10年展望」を掲載したこと、印刷業者の見直しと、印刷物の図をカラーから白黒に変更したことで、経費を大幅に削減したことが報告された。

・JOS ニュースレター（津田編集委員長）

1年間でVol. 3の1-4を発行した。印刷業者を変更し、経費を大幅に削減できた。

c) 研究発表（鈴木幹事）

2014年度の大会開催計画について報告があった。また、大会運営検討WGを設立したことが報告された。1年間にわたり、参加費・要旨集代・懇親会費等の検討、研究発表プログラム・シンポジウム・セッションのあり方、大会実行委員会の負担などについて議論し、提言をとりまとめる。

d) 賞選考

・学会賞・岡田賞・宇田賞（津田前委員長）

2014年度学会賞、岡田賞、宇田賞の選考結果が報告された。

・日高論文賞・奨励論文賞（大島前委員長）

2014年度日高論文賞・奨励論文賞の選考結果が報告された。

・環境科学賞（速水前委員長）

2014年度環境科学賞の選考結果が報告された。

e) 選挙管理（山中幹事）

各賞の可否投票および賞選考委員の半数改選の選挙結果が報告された。

f) 広報（原田幹事）

学会パンフレットを作製したことが報告された。海洋学会を広く知ってもらうために活用していただきたい。

g) 海洋環境委員会（鈴木委員長）

名称を「海洋環境問題委員会」から「海洋環境委員会」に改めた。2013年度青い海助成を2件行ったこと、2014年度の公募に対して応募がなかったことが報告された。

h) 海洋環境問題研究会（速水研究会会長）

メンバー2名増えたこと、3月30日にシンポジウムを開催すること、ウェブページの充実をはかっていることが報告された。

i) 沿岸海洋研究会（武岡研究会会長）

昨年秋以降の活動について報告があった。シンポジウムを開催したこと、機関紙を発行したこと、速水論文賞1件を授与したことが報告された。

j) 西南支部（中村支部長代理）

シンポジウムを開催したこと、ニューズレター第43号を発行したこと、来年度例会を沖縄で開催する予定であることが報告された。

k) 教育問題研究会（岸会長）

COSIAの体験ワークショップ、シンポジウムやサイエンスカフェの開催、地学オリンピックへの講師を派遣、NLへの海のエッセイの掲載などの活動が報告された。

l) ブレークスルー研究会（渡邊会長）

会員のメーリングリストとウェブサイトを作成したこと、2014年度の行動計画を作成したことが報告された。

2) 学界関連報告

a) 学界動向（須賀副会長）

各種関連会議・団体の主な動向などについて報告があった。詳細はNLに掲載している。

b) 日本地球惑星科学連合（原田幹事）

2014年度大会は横浜で開催される。参加費を値上げしたにも関わらず、投稿件数は3900件と去年並みである。2015年度の大会は幕張での開催を予定している。また、次期セクションプレジデントの選挙があったこと、4月からフェロー制度が実施されることが報告された。

c) 水産・海洋学研究連絡協議会（津田幹事）

2013年度に2回の会合があったこと、震災関連シンポジウムが開催され、神田幹事が話題提供を行ったことが報告された。

3) その他

（植松会長）

海洋観測ガイドラインの作成について検討するWGを設置したことが報告された。

4. 審議事項

1) 2013年度事業報告並びに決算報告について（岡・寄高幹事）

2013年度の事業の概要が報告された。

2) 2013年度監査報告について（今脇監査）

2013年度の監査が実施され、会計処理が適切に行われたこと、残高を確認した旨報告があった。監査報告を踏まえ、2012年度事業報告、決算報告、監査報告が承認された。

3) 2014年度事業計画並びに予算案について（岡・寄高幹事）

2014年度の事業計画と予算案が提案されたJO電子ジャーナル化準備金の利用が終了したこと、業務委託費が減少したこと、業者の変更により印刷代の予算が削減できたことが報告された。また、JOのロイヤリティの収入が予定されているが、未確定であるため計上していない。

4) 沿岸海洋研究会の会長交代について（小畑幹事）

新会長として門谷会員が推薦され、承認された。

5) 受賞記念講演座長について（小畑幹事）

原案通り承認された。

6) 奨励論文賞の細則改定について（小畑幹事）

秋の評議員会において、前委員長から推薦数が少ないので対象を増やしたいという意見が出された。幹事会で議論した結果、対象論文を「当該論文の受付日に筆頭著者が学生会員、または学生会員から種別変更して2年以内もしくは30歳未満の通常会員であったものの中から」とし、細則第1条3)を改定することについて承認された。この改定により対象者はどの程度増えるのかという質問が出され、2倍程度の増加が予想されるとの返答があった。

7) JO掲載料課金の提案について（日比谷編集委員長）

2011年の電子ジャーナル化以降、投稿数が増加した一方、投稿論文の質の劣化が顕著であり、却下率が非常に高くなっていること、不正論文が増えてきたことなどの説明がなされ、これらの改善とJOの質の向上のために掲載料を課金することが提案された。審議の結果、投稿料はページ数によらず、論文一編について会員20000円、非会員50000円とし、会員割引の対象は「投稿時に第一著者が会員であること」が承認された。今後、2重投稿を防ぐための他のジャーナルとの情報交換の方法や、集金システムの詳細などの検討が必要であることが確認された。開始は7-8月頃を目指すことになる。

8) 名誉会員の推薦について（岡幹事）

高橋・谷口両会員の名誉会員への推薦理由書を確認した。

9) 2014年度鵜総会議事次第案について（小畑幹事）

議事次第案を確認し、原案通り承認した。

10) その他

賞選考委員会の委員の追加について（植松会長）

三賞選考委員として石丸会員の就任が承認された。また、その他の賞選考委員会においても追加委員の検討を行っていることが報告された。候補者の承認については後日評議員によるメール審議を行う予定である。

5. その他

中田次回大会実行委員長から、秋の長崎大会に向けての挨拶があった。